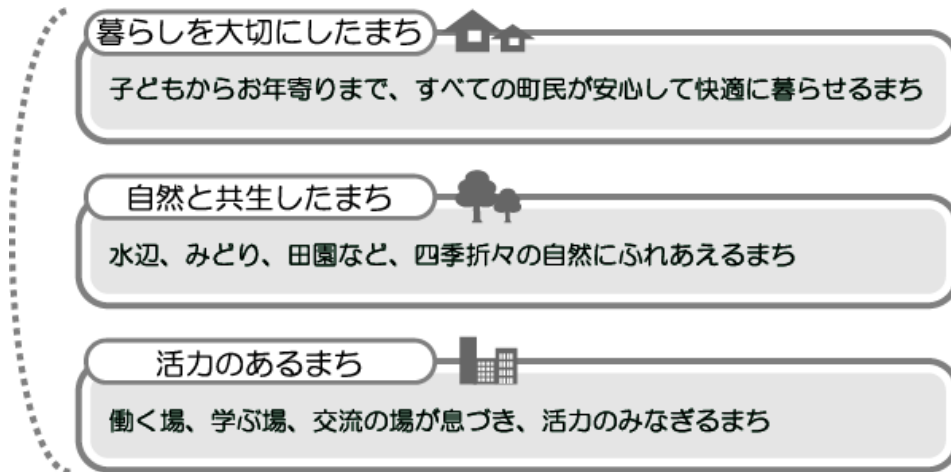




3 - 1 . まちづくりの基本理念

境町がこれまで培ってきた自然や歴史的な条件、広域的な条件などを踏まえ、概ね20年後の将来に向けた本町のまちづくりの理念を次のように考えます。



3 - 2 . 将来都市像

境町は、利根川と江戸川の分岐点に位置することから、水運の拠点（河岸）として、また、結城街道の宿場町という2つの性格をもつ交通の要衝として栄えてきました。

その後、鉄道の開通により、次第に交通の要衝としての機能を失ってしまいましたが、21世紀の境町は、首都圏中央連絡自動車道と国道354号バイパス、新4号国道といった新しい時代の交通の結節点になろうとしています。

このようなことから、まちづくりのキーワードを「交流」とし、将来都市像を下記のように考えます。

交流拠点都市-さかい





3 - 3 . 将来のまちの姿

境町における今後のまちづくりは、まちづくりの理念を踏まえ、将来都市像を共有することから始まります。

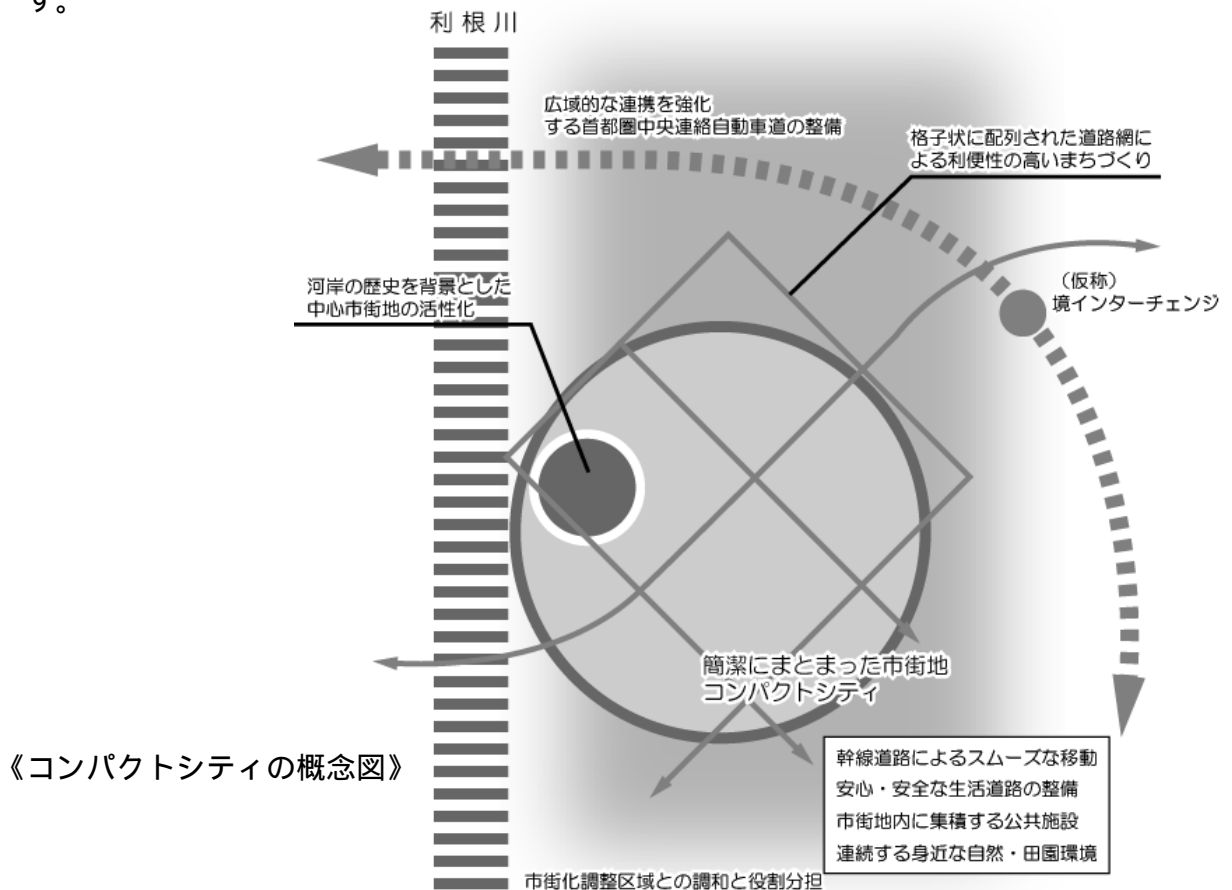
そして、境町が発展してきた歴史的・自然的な条件から育まれてきた自然環境や生活環境を後世に継承しつつ、活力ある都市づくりを進めていくための将来のまちの姿を以下のように考えます。

1 . 便利で質の高いまち - 市街地

境町の市街地は、ほぼ2km四方におさまる程度の簡潔なものとなっています。この大きさは、徒歩や自転車での生活が可能で、市街地の発展に不可欠な幹線道路についても、主要地方道結城野田線を都市軸とした格子状の幹線道路網の整備により、交通体系の整ったまちとなります。

また、簡潔なまち=コンパクト・シティは、日常生活に必要な生活道路や公園、上・下水道などが整い、買い物、通勤、通学などの利便性の高いきめ細やかな、質の高いまちづくりを推進することができます。

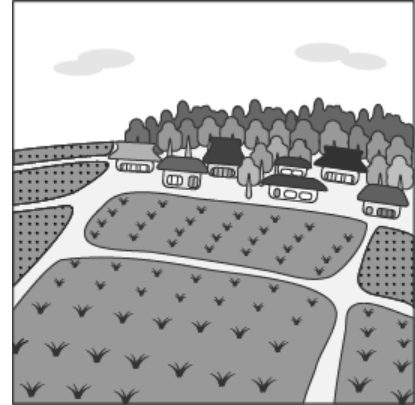
従って、将来のまちづくりにおいては、市街化調整区域との調和や役割分担を図りながら、むやみな市街地の拡大は避け、便利で質の高い-コンパクト・シティをめざします。





2. コミュニティが持続するまち - 集落地

質の高い市街地の形成を図るとともに、各集落においても、これまで育まれてきたコミュニティを基礎に、生活の安全性、快適性と農地の保全とが調和した環境づくりを進めていくことが大切になります。



3. 豊かな田園環境と共生するまち

境町は、美しい筑波山を背景に、実り豊かな田園風景と利根川といった、まさに日本の原風景的な環境を有しています。これらの自然環境は、次の世代へと受け継いでいかなければならない貴重な財産であるとともに、都市生活者との交流をうながす資源でもあります。このような田園環境を大切に守り、活かし、自然と共生できるまちづくりを進めます。



4. 人にやさしい、くつろぎとやすらぎのあるまち

子どもから高齢者、障害者まで、すべての町民が、安全で快適に暮らせる人にやさしいまちにするためには、バリアフリーをはじめとする福祉的な理念に根ざした施設整備をはじめ、地域の特性である自然や歴史などを活かしたくつろぎとやすらぎのあるまちをめざします。



5. 賑わい・集い・活力のあるまち

賑わいのある中心商業地の形成や、自然とのふれあいなどを通じての集いの場を育む施策を推進させ、広域的な視点で交流人口の流入を促す必要があります。

また、町の立地特性や交通体系を活かした活力の場づくりを進めます。

